



信州環境カレッジ

SHINSHU ENVIRONMENTAL COLLEGE

協働講座@飯田女子高等学校 「SDGs de 地方創生」カードゲーム体験

昨年 12 月 12 日 (土)、長野県と学校法人高松学園飯田女子高等学校主催による「SDGs de 地方創生」カードゲーム*体験講座が、公認ファシリテーターの小牧学氏、大槻拓美氏を講師にお迎えし、飯田女子高等学校視聴覚室にて開催され、高校生を中心に 30 名が参加しました。講座の運営にも積極的に携わった飯田女子高校 1 年進学コース E クラスの熊谷朋華さんに、当日の感想などを交えながらリポートいただきました。



私たち飯田女子高校 1 年 E クラスでは、SDGs について学んでいます。知識としては知っていても、なかなかイメージが湧かず、「もっと知りたい」「もっと自分事としてとらえたい」と思い、長野県主催で行われていた「SDGs de 地方創生」カードゲーム体験に参加しようということになりました。しかし、今年度は開催を見合わせていると知りました。そこで、参加者の人数や地域を限定し、本校を会場に小規模で開催できないだろうかと思案したところ、快く引き受けてくださったため、今回本校での開催となりました。私は探究活動の授業で、SDGs や多文化共生、環境問題などをテーマに活動するゼミに参加していますので、今回は実行委員として関わらせていただきました。



当日は、公認ファシリテーターの小牧さん、大槻さんのスムーズな進行のもと、ゲームがスタートしました。参加者 30 人は 10 グループに分かれて、グループごとに任された役職に合ったアクションをしました。グループ分けはくじ引きで行ったため、お互いに初対面の方が多く、普段関わりのない人との交流もできました。

ゲームが始まると、グループごとに設定された目標に向けて、参加者全員が協力する姿が見

られました。「この事業を行いたいけど資金が足りない」や「これを実行するにはこの職業が足りない」といった足りない部分は「行政」に行ってお金を借りたり、他のグループと交渉して何かと交換してもらったりと、それぞれ工夫し協力して達成していきました。そうして実行したアクションによってまちが良くなると、参加者全員で拍手をしたり、とても一体感が感じられました。

ゲームの前半はほとんど状況が変わらず皆不安に思いましたが、後半になるとお互いの協力により、「経済」や「暮らし」を中心に値が大幅に上がり、まちがより良くなっていくのを実感しました。最終的には、全ての指標がより良くなり、特に「経済」に関しては初めの値の 3 倍近くにまで上げることができました。(※写真は途中段階の状況)

私はこのカードゲーム体験を通して、自分自身がまちをより良くする立場になって活動したことで、SDGs が身近に感じられたり、自分のたった一つの

アクションでもまちづくりに影響を与えるということが実感できて、SDGs も他人事ではないと感じました。このような貴重な体験をさせていただいた分、今後少しでも役立てていきたいと思えます。

種別	5	1	2	3	4
人口	5	4	4	5	
経済	5	5	7	10	
環境	5	6	6	7	
暮らし	5	5	3	7	
	0/10	0/10	0/10	0/10	0/10

*「SDGs de 地方創生」カードゲームとは…… 参加者は、架空のまちの「行政」や「まちで活動する市民」(町工場の経営者や一般市民等)に分かれ、各々の役割に応じた行動を实践。まちの状況は 4 つの指標(「人口」「経済」「環境」「暮らし」)で表され、行動次第で値が変化。参加者全員で持続可能なまちづくりを目指すロールプレイングゲーム。



わが社の SDGs

—— 会員の皆様の取り組みを随時ご紹介します ——

はやしやグループ

株式会社はやしやは、全国のセブン-イレブンで販売されているセブンプレミアムの惣菜の企画開発と製造をしています。また、子会社の株式会社デリーはやしやは、おにぎりや弁当、惣菜、デザートなどの企画開発と製造をしており、毎日、新潟県、長野県、山梨県、静岡県のセブン-イレブンに商品を供給しています。

商品の企画開発では、**地産地消**をテーマに地元の食材を使った新商品の開発に注力し、県産米の使用を始め、地元の農協などと提携し、県内で採れる野菜や果物などを積極的に使用しています。また、商品パッケージの印字は**バイオマシーク**を使用するなど、SDGsを意識した取り組みを実施しています。

環境保全活動については以前から、**二酸化炭素の排出抑制、使用エネルギーの削減、水の使用量の削減、産業廃棄物の削減**などに取り組ん

で来ました。特に**食品残渣**については、飼料化、たい肥化などに取り組み 99.3%のリサイクル率を達成しています。2020年6月には、**エコアクション 21**の認証を取得し(写真上)、更に力を入れて取り組んでいます。

2019年12月には、従業員の福利厚生と地域の待機児童問題に対応し、**企業主導型保育所の「はやしやキッズガーデン」**を開園し(写真下)、子会社の株式会社はやしや保育園が園の運営を始めました。はやしやキッズガーデンは、当社の

従業員の他、近隣企業や周辺地域のお子様もお預かりし、お子様を保育園に預けることが出来ずに、働くことが出来ない方が就労できる環境づくりにも微力ながら貢献しています。

今後も様々な活動を通じ「人のため、社会のためになる会社」を目指してまいります。

(グループ管理部 総務室長 南澤尚樹)



株式会社長野日報社

当社では 2020年8月より地域企業の**SDGsの取り組みを紹介する特集を展開**しました(第1弾として32回掲載)。今日までも様々な案件の特集掲載をしてきましたが、大きくシリーズ化したのはSDGsが初めてです。

きっかけは1年前。ある企業の広報担当者から送られてきた長野県のSDGs認証マーク。一般的な認知度は今程高くなかったため、申請に至った経緯を伺いました。

その担当者が会社説明をする機会に、ISOを含めた高い品質管理と独自開発し進化させたシステムなどをアピールしたところ、「御社は日々、社会や地域に、環境に対してはどのよ

うな取り組みや役割を果たそうとしていますか」と問われ、一瞬言葉を失ってしまったそうです。経済発展と引き換えに置き去りにされた環境・人・社会問題への解決に向けた行動が、今後の経営の「柱」になっていくのではと感じSDGs申請に至った——との話でした。

当社の企業理念は「**広い視野に立ち、地域をみつめ、地域とあゆみ続ける**」です。10年、20年先の未来を見つめ、紙面を通じてSDGsを発信し普及に繋げる事がメディアの役割でもあり、安心できる社会や幸せを育む地域づくりに役立てるのではと考えます。

(広告局 芦澤一成)





【新春特集】

畜産と地球温暖化〈後編〉適応策

新年号「〈前編〉緩和策」に続き、昨秋、長野県畜産試験場で伺ったお話をお届けします。



畜産にみる地球温暖化の影響

牛・豚・鶏は、夏の暑さからストレスを受けたり、夏バテになったりして、食欲が減ってしまいます。

乳牛では牛乳の生産量が減り、乳成分も低下、採卵鶏は産卵率・卵重が低下、肉用の牛・豚・鶏では肉の生産量が減り、肉質が悪くなります。

また、飼料作物も、夏枯れや生育不良、病害、種を播く時期・収穫期が変わってしまうこともあります。

暑さ対策

牛は、開放式の牛舎内に送風機からポリダクトチューブ配管を通して風を送ると、風で体温が下がり、汗が気化して涼しくなります。特に乳牛は暑さに弱く、25℃を超えるとバテてしまうので、送風だけでは効果がないときは霧を出します。



●肉牛舎
ダクトファン送風
夏場は24時間稼働。夜間にエサを与えると食欲が増える効果も！

穴から下向きの風

●乳牛舎 細霧送風システム

十分な換気の下、牛の肩から背、首筋に向けてピンポイントで細霧を吹き付ける。牛床を濡らさずに、牛体が十分濡れ、食欲が増進、乳量の低下を抑えられる。



分娩豚舎では、3年前に試験を行い、地中

熱交換装置を使って涼しい空気を送風することで、寒さに弱い子豚に悪影響を与えずに、母豚の体温・呼吸数を下げ、夏のストレスを和らげる効果が確認できました。



吸入口 分娩豚舎 豚舎へ
●深度2m・延長36m・直径20cmの塩ビ管を埋設

飼料用ソルガム「東山交37号」

近年の温暖化により、長野県内でもソルガムに紫斑点病の発生が増えています。罹患すると4割ほど収量が減ってしまいますが、3年前、この紫斑点病に対する抵抗性がある新品種のソルガム「東山交37号」を開発しました。牛が消化しにくい繊維が少なく、また、トウモロコシと比較して、イノシシやクマなどの獣害を受けにくいこともあり、広く普及を図りたいと考えています。



スーダングラスの新品種開発

従来栽培してきた寒地型のイネ科の牧草は、温暖化により夏枯れしてしまいます。そこで、アフリカ原産で暑さに強いスーダングラスを利用すべく、研究中です。ただ、スーダングラスは硝酸態窒素を蓄積しやすく、牛は硝酸の高いエサを食べると重度の貧血で死に至るので、いかに低硝酸化するかが課題です。また、本来1年草ですが、省力・低コスト化に向け多年生の形質を導入するよう品種改良を進めています。

【番外編】アニマルウェルフェア

家畜のストレスを減らすよう、快適性に配慮しています。乳牛が従来より自由に動ける、新しいチェーンの繋ぎ方を開発しました。



地鶏は平飼いで飼育密度の基準がありますし、他の鶏もできるだけケージを使わない方向です。

豚は、一昨年の豚熱で現在飼育していませんが、新たな豚舎が3月完成予定で、分娩豚が行動範囲を変更できるフリーアクセスストールを導入します。

場長・神田章様をはじめ、古賀照章様、海内裕和様、関谷尚紀様、清沢敦志様には、お時間を割いて丁寧にご説明下さり、また、広い場内を車でご案内いただき、本当にありがとうございました。

長野県畜産試験場（塩尻）

標高770m ほ場面積40.6ha 建物96棟
●乳用牛（ホルスタイン種）70/●肉用牛（黒毛和種他）90、●鶏（肉用種鶏・日本鶏他）4,000



**（長野市少年科学センター特別企画）
キッズサイエンス スペシャル・デー**

1/16（土）、長野市少年科学センターで「キッズサイエンス スペシャル・デー」が開催されました。昨年までは長野高専等で大規模に行われていましたが、今回は新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行うため、規模を縮小して実施されました。協会では地球環境の現状を子どもたちに伝えるため、デジタル地球儀「スフィア」を出展、来場した親子は「スフィア」の球面に映し出された現在の地球の海水温や北極・南極の海水、地震・台風など自然災害の発生状況、21世紀末の地球温暖化のシミュレーション画像を熱心に観察しました。また、コロナが世界で蔓延する今も、船舶が^{おびただ}しく運行する様子をリアルタイム画像で興味深く見ていました。



県推進員オンライン研修会開催

12/16（水）、令和2年度長野県地球温暖化防止活動推進員研修会 兼 信州環境カレッジ協働講座『長野県気候危機突破方針～県民の知恵と行動で「持続可能な社会」を創る～』を、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、初めて「Zoom」によるオンライン形式で開催しました。県ゼロカーボン推進室より「2050ゼロカーボン社会の実現に向けて」、『[信州版]省エネガイドブック』を編集された宮原則子・宮澤信 両推進員より「冬の省エネについて」をお話いただきました。「チャット」にリアルタイムで質問・感想が寄せられるなど、オンラインならではのよさもありました。参加者はオンライン参加28名（後日視聴含む）、会場参加6名でした。



「信州環境カレッジ」WEB 講座スタート



信州環境カレッジでは、このたび、気候変動やゼロカーボンについてスマホやパソコンで学べるWEB講座を開設しました。気候変動の基礎知識を、気象予報士・依田司さんの解説とクイズで学べる「eラーニング」のほか、小学生から大人まで世代ごとに具体的なテーマに沿った動画や、学びの仕上げ「信州ゼロカーボン検定」など、楽しみながら学ぶことができるコンテンツが盛り込まれています。ぜひホームページをご覧ください。



事務局だより 県内企業・団体が環境関連各賞を受賞、とのニュースが届いています。おめでとうございます*（敬称略）

2020年度「省エネ大賞」	資源エネルギー庁長官賞（建築分野）	ホクシンハウス株式会社
	審査委員会特別賞	株式会社守谷商会
令和2年度「気候変動アクション」	普及・促進部門大賞（緩和・適応分野）	諏訪湖浄化推進「和限」
第8回「グッドライフアワード」	環境大臣賞優秀賞	有限会社カネマツ物産
		NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター

【発行元】 〒380-0835 長野市新田町 1513-2 (82 プラザ長野)

📌 誌名の「エコシン」は「エコ信州」の略称です

- 一般社団法人 長野県環境保全協会
TEL:(026)237-6620 FAX:(026)238-9780 E-mail:nace@janis.or.jp http://nace.main.jp/
- 長野県地球温暖化防止活動推進センター
TEL:(026)237-6625 FAX:(026)238-9780 E-mail:nccca@dia.janis.or.jp http://www.dia.janis.or.jp/~nccca/
- 長野市地球温暖化防止活動推進センター
TEL:(026)237-6681 FAX:(026)237-6690 E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp http://www.eco-mame.net/

